

3期目の町政執行にあたり

日高町長 三輪 茂



山々の木々も色濃くなり、春らしさが一段と実感できる季節となりましたが、町民の皆様には、ますますご健勝のことと心からお慶び申し上げます。

このたびの日高町長選挙では、町民の皆様からの絶大なるご支持をいただき、三たび無投票にて当選の栄に浴しました。

このことは、この上なく光栄な

ことと存じますが、3度の無投票当選は、これまでの町政執行が認められたものであると同時に、皆様からの3期目への大きな期待の現れであり、その責任の重大さを全身で感じているところであります。

町政の運営は、まだまだ難題が山積しておりますが、町民の皆様のご期待に応えるべく、渾身の力を出し切る決意であります。

私の町政執行の基本的な考え方を申し上げます。

平成18年の町合併から、早くも8年が経過いたしました。

これまでの2期8年は、町民の目線に立って話し合える環境づくりをすすめてまいりました。行政は町民のためにあり、共に町づくりを進めていきたいという想いは、1期目から変わらず念頭に置き、町政執行の基本としてい

るところであります。

ご承知のとおり、我が町日高町は、飛び地による合併の町であります。地域住民が疎外感を感じたり、受けたりすることは許されません。

住民の一体感を更に醸成するため、町民同士が親しく交流できるイベントの開催や交流事業を積極的に推進しながら、さまざまな組織の一体化や、各種事務、事業の一本化を進めてまいりました。

日高町は、北に日高山脈をいただし、そこを源流とする沙流川が悠々と流れ、太平洋に注いでおります。山あり、川あり、海のある自然環境に恵まれたまちであります。こうした特性を活かしながら、第一次産業を中心としながらも様々な分野の産業を生き生きとした活力のある町にしてい

かなければなりません。加えて、防災・減災対策、健康・福祉の充実、観光開発の振興などに、より一層力を注いでいかなければなりません。

地方行政を取り巻く環境は、依然として厳しく、住民サービスのあるあり方についても再考しながら行政コストの削減を図っていくかなければなりません。今後町民の皆さんとの対話を通して、町民一人ひとりが夢と希望をもって町政に参画し、生き生きとした町、活力のある地域の実現を図ってまいります。

「この町に生まれ、この町で育ち、そしてこの町に住んで本当に良かった」と町民が誇れるまちづくりを目指して、今後も引き続き頑張りますので、町民の皆様のご御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

副町長・教育委員会教育長の選任

4月15日に行われた日高町議会4月会議での同意を得て、本庁担当副町長に佐藤則男氏が、日高総合支所担当副町長に工藤好功氏がそれぞれ再任されました。

また、4月21日に行われた教育委員会において、任期満了となる佐々木光由教育長に代わり、宮川正己氏が教育長に選任されました。

佐藤 則男

本庁担当副町長
(再任)

昭和46年 門別町役場に奉職
平成10年 企画振興課長
平成12年 企画商工課長
平成16年 総務課長兼行政改革推進室長兼市町村合併推進室長
平成18年 総務課長兼合併調整室長兼行政改革推進室長
平成19年 保健福祉課長兼保育所管理者
平成20年 保健福祉課長
平成22年 日高町副町長(本庁担当)
昭和28年生まれの61歳

工藤 好功

日高総合支所担当副町長
(再任)

昭和42年 門別町役場に奉職
平成7年 水道課長
平成9年 管財建築課長
平成10年 建設課長兼技術審議室長
平成13年 管財建築課長兼技術審議室長兼門別町立病院改築及び保健センター新築準備室建築担当次長
平成15年 兼ねて災害復旧対策副室長
平成16年 建設課長兼技術審議室長兼災害復旧対策室長
平成18年 日高町助役(日高総合支所担当)
平成19年 日高町副町長(日高総合支所担当)
昭和24年生まれの65歳

宮川 正己

教育委員会教育長
(新任)

昭和53年 門別町役場に奉職
平成15年 保健福祉課長兼在宅介護支援センター所長兼保育所管理者
平成18年 保健福祉課長兼保育所管理者
平成19年 総務課長兼合併調整室長兼行政改革推進室長
平成20年 総務課長兼行政改革推進室長
昭和29年生まれの59歳

就任のご挨拶

教育委員会教育長 宮川正己

4月15日に招集されました日高町議会定例会4月会議におきまして、教育委員の選任にご同意を賜り、4月21日開催の教育委員会におきまして教育長に選任いただき、日高町の教育行政を執行させていただきますこととなりました。

身に余る光栄に存じますとともに、日高町の次代を担う子どもたちの教育を推進するという責任の重さに身の引き締まる思いであります。



昨年12月、小学校5年生と中学校2年生を対象として実施した全国体力テストの結果が公表されました。北海道の小学校5年生男女と中学校2年生女子は、47都道府県中47位、中学校2年生男子は、46位という状況でありました。専門家からは、「北海道の子どもの体力不足も来るところまで来た。」と危機感を募らせた発言があり、地域を挙げた取り組みや冬季の運動量の確保などを課題に挙げています。また、体力向上の積極的な取り組みによって、学力向上にもつながる可能性も指摘されています。北海道教育委員会では、体力の向上や学習意欲の向上に資する取り組みとして「早寝早起き朝ごはん」運動を展開しています。日高町では、昨年、学校給食が導入され食育を推進するための核となる施設が整備されており、朝ご飯を食べて学校に行くことを生活習慣の基本として、早寝早起きなど生活全般のリズムを確立していくことで、体力の向上にもつながっていくよう家庭や地域が一体となった取り組みを進めて参りたいと考えております。保護者の皆様はじめ、地域の皆様、それぞれのお立場から子どもたちの健全な育成に向けまして、ご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。就任にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。